

带状疱疹ワクチンへの助成及び定期接種化を求める意見書

带状疱疹は、過去に水痘に罹患した者が加齢や疲労、ストレスなどによる免疫力の低下により、体内に潜伏する水痘・带状疱疹ウイルスが再活性化し発症するものである。

日本では、50歳代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が発症すると言われており、さらに治療が長引くケースや後遺症として痛みなどの症状が残るケースもある。また、带状疱疹による神経の損傷によって、その後も痛みが続く「带状疱疹後神経痛」と呼ばれる合併症に加え、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などを引き起こし、目や耳に障害が残ることもあるとされている。

この带状疱疹の発症予防には、ワクチン接種が有効とされているが、接種費用が高額になることから接種を諦める高齢者も少なくない。

よって、国においては、带状疱疹発症予防のため下記の対策を講じるよう強く求める。

記

- 1 带状疱疹ワクチン接種の助成制度を創設すること。
- 2 带状疱疹ワクチン接種を予防接種法に基づく定期接種化とすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和6年3月22日

宮崎県小林市議会